

全国女性のつどい in TOKYO

全国各地から156名が大集合!!



充実した2日間を過ごしました

雨にもマグス、新型インフルエンザにもマグス…5月30・31日、「第四回全国女性のつどい in TOKYO」は、東京・虎ノ門に五六名（子ども八名含む）が集いました。「選ぶ力をつけよう～ぶれない

力～」をめざすまま決断を迫られています。一人ひとりが学び、知り、能動的に選んでいくことができます。私は日々の生

活や仕事の中でもさまざまな決断を迫られています。私は、経済評論家の時間和代さんを迎えて「断る力・選ぶ力」と題して行われました。断る力とは、主体性をもつて決断していくこと。それに

は「誠実」「率直」「対等」「自己責任」の四つの柱が欠かせない。自分のゆるぎない軸を持ち、相手への建設的な影響力を發揮することで、自分と周囲の循環を作ることができる、とのことです。つどいのスローガンにピッタリの講演となりました。また、メディアに働きかけた。また、政府・官僚・大企業の監視機能の役割を果たしてほしいと結びました。続く六つの多彩な分科会では、それぞれ活発な討議、ワークショップ、実技など心身ともに活性化され

た一時間となりました。

一日目は、パネルディスカッション「働き続けるために私たちの選択」が行われました。映像ジャーナリスト熊谷博子さんのほか、新聞記者、準キイ局社員の三名のパネリストと司会者の四名全員が共働きで子育て中の女性。女性がまだ働きづらい社会であること、子育てはどうして

も女性の負担が多いこと、そんな中で働き続けてこられたのは、「世の中がおかしい」「会社もおかしい」という怒りがバネになっ

た、という迫力ある展開に勇気づけられました。なかつそれぞれのパネリストの人間性輝かでしなやかな魅力ある働き方、生き方に、

会場からはたくさんのお話をうけました。なまらした。明日を信じられる二日間の「つどい」となりました。

して働いていた」という趣旨の発言がございました。子育てや、地域のことは、女、子どものやることなど、だん思っていたそうです。しかし、深刻な意見ノイローゼがきかけで、自分がいかに懶漫だったか気がつき、それからは作るもののが変わってきたといいます。熊谷さんは、フリーとして働いていくには男性の仲間をいかに作るかが重要だと話されました。

そして、新聞社でも派遣や契約の女性は肩回り業務が取れない現実があらゆること。しかし、数年前から派遣や契約の方も労働組合の準組合員とし、(月会費は五〇〇円)契約などの交渉に組合も関わり、闘争意識が高まってきたといいます。また、「テレビで働いている方は、会社で働くこと自体がすごく意義があること」社会生活で

人、毎日新聞社会部記者の太田阿利佐さん、読売アレジの内橋由佳さんのお三方。そして、女性団の足立美香議長の司会で行われました。

熊谷さんが社会人になつたのは、オイルショックの頃、当時大手マスコミで女性を採用しているところは少なく、プロダクションに入社。その後、フリーになり、三八歳で婚嫁、四〇歳で出産。出産まで、「男ども心無い発言がきつかけで絶対社会をやめない」と思い直したそうです。

八〇年代後半に毎日新聞に入社。二七歳で同期と結婚。記者職を離れ、整骨院で出産・育児をしたそうですが、当時は、子どもを生む女性が少なく、娘が弱気で休んだり早退しなければいけないと、仕事をやめたくなったほうがいいのです。と懶なぞう。そんなとき、子どもの病気に対する上司の心無い発言がきっかけで絶対社会をやめない。と

八九
論

働き続けるために

各分野でご活躍のパネリストのみなさまへ

「感じた疑惑な話をきくんと放送に反映させないのは意慢です」とおっしゃっていましたのが印象的でした。

内橋さんは、技術職で入社。現在はコンソーシアム業務推進部に在籍。放送局で働く人たちの待遇改革をめぐるかが大きなテーマだといいます。相合の原点は、賞金のダンピングを防ぐこと。ならばなぜ放送業界に、年収300万円以下で、家にも帰れない人がいるのか?こういった状況を許せば、いつか私たちも賞金のダンピングに巻き込まれるだろうと語られました。また、様々な愁いを原動力に活動してきたという内橋さ

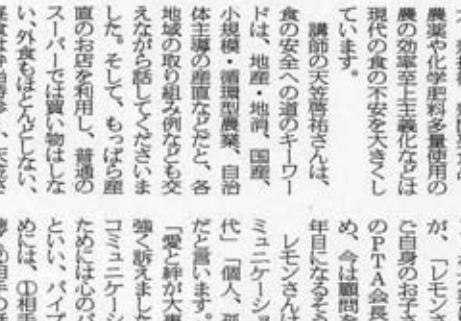
にチームを組んでのクイズ大会。「アナログ放送停波は〇〇年〇月〇日?」日本は最初に来たパンダの名前は?」などの問題に解答するたびに、各チームでは大きな歓声が上がりました。そして、クイズのボイント上位三位に、

A black and white photograph capturing a classroom scene from an elevated angle. Several students are seated at long, dark wooden desks arranged in rows. The students appear to be focused on their work or listening attentively. The room has a simple, functional design with light-colored walls and a polished floor.

分科会(5)

分科会⑤

食の安全はなぜ脅かされる
ようになつたのか



血栓シテ

「一大喜利」による大喜利を行われました。なまのテーマは「仕事」。1人の代表選手が知つて披露してくれたかけ話を紹介します。

①「仕事」とかけはんべーと解く。心は「たくさんためかけわら」よく破れました。
②「仕事」とかけはんべーと解く。「はい」と解く。心は「気(き)」がいだじょう

質問する③そして
ることが大事だと
した。ほかには、「
(子育て)はソムリ
ーじである」とい
法としてほの親、大
相手(子供)にメ
ニューを見せて④お勧
めのものを提示し
つつ、アドバイスをす
る⑤そしてディス
ティングしてもら
う。本人が決定したら
⑥お勘定(「責任」)
をしてもらうことを
具体的例をあげな
がら説きました。
この方法を繰り返す
ことにより、自分に

日本母親大会に参加しよう♪

7月25、26日 京都で開催

第五回日本映画大会

さう、世間をみて、北から
ら南から日本母親大会に集
まつましよ。

■ 参加費・会員券・一日
五〇〇円

卷之三



女性協議会

- 女性協
URL
<http://www.minporoen.jp/women/index.html>

内 容

【二日目】全体会・記念講演
演「いのちの輝き それは
平和であればこそ」(京都府
佛教会理事長、臨済宗相應寺
寺派贊兵、金蘭寺、銀閣寺
住職 有馬照昭さん)

(もんたい)・権利のもんたい。
(二〇分科会)・女性の地位向上・男女平等めざして
位向上・男女平等めざして
(三分科会)・平和と民主主義のもんたい。(四分科会)
や講座・特別企画・見学会など西三のテーマで、充実した内容を準備して
ます。